

**主題：人口減少社会での新たな高齢者制度におけるシステム課題について****－副題：運用面を中心に、課題と展望を考える－**

○ 未来社会システム研究会 氏名 谷尾 昌威 (008728)

キーワード3つ：人口減少社会、介護人材、高齢者制度

**1. 研究目的**

人口減少社会において、高齢者介護の社会的担い手確保は、喫緊の重要課題である。2022年の我が国の出生数は、統計測定開始より初めて過去最低の約79万9728人(速報値)となり、今後もこの流れは続くものと予測できる。そうしたなか、高齢者の介護人材不足は、より拡大して行くものと予測できる。高齢者介護制度を持続的に維持して行く為にも、少ないマンパワー下で持続可能な高齢者介護福祉施設を構築して行く必要があり、その様な施設を運用面で考え、現行の介護保険制度、施設整備関連の制度から体制をどの様にして行く事が、望ましいのかを考察する。

**2. 研究の視点および方法**

研究の視点として、まず介護保険制度施行当時の運用面の財源(介護報酬体系)の考えから運営コストがどの様に見込まれているのか、そして、どう変更が必要なのかを考察する。そして、施設整備に係るコストについて、設備面の財源から考察する。

研究方法として、文献研究を中心とし、介護保険関連資料等を使用し2000年介護保険制度施行当時の報酬体系から、今日的課題である介護人材不足下で新たな代替え手段について比較、考察する。

**3. 倫理的配慮**

文献研究に際して、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守する。また、本発表に関連して、開示すべきCIOはない。

#### 4. 研究結果

新たな高齢者政策を考える際、今後、少子化問題は更なる高齢者介護の担い手不足と言う課題へと繋がる。介護保険が施行された2000年当時は、こうした状況下ではなく、人が人を介護するというヒューマンケアが中心で、介護保険の報酬体系作りも人ありき、人材ありきでの議論が中心で、担い手を育成するという視点が重視され、専門職の養成がもっとも重要で、新たな介護保険の中心的役割を、ケアマネジメント専門職が担うこととなり、それは新たな専門職である介護支援専門員職誕生へと繋がった。今日でもそうであるが、従来の考え方である人ありきで、ケアの担い手を効率よくマネジメントすることで、ニーズとサービスとの調整を行い、ニーズの充足を行うことで制度運用する仕組みは、ヒューマンケアが中心である。そしてヒューマンケアを中心としたソフト面での運営財源は、それまでの措置費から、2000年、新たな介護報酬新設によって確保され、新たな報酬体系が構築された。それは、人件費を中心に報酬体系が生まれ、入所系サービスにおいては、入所定員という枠の中で、要介護高齢者を受け入れた稼働率によって施設運営財源が確保されていた。冒頭でもふれた今日の高齢者介護の担い手不足という課題では、不足する人材を補う代替課題が中心となり、それなりの設備投資、代替の導入コストが発生するものと予測される。そこで介護ロボットの導入やICTを活用したシステムの構築を考えると、2000年に導入された介護報酬体系の構造は見直す必要があるのではないだろうか。それは大幅な転換を見据えたものと考えられる。

#### 5. 考察

昨今、介護ロボットの開発は、大きく前進しており、導入に係る費用面も補助される状況へと変わりつつあり、本格的に人材不足への対応が望まれる。

介護ロボットが機能する為の仕掛けがハード面での施設設備へも波及する事を踏まえ、新たな形を創造して行く必要があると考える。